

平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 兵庫盲導犬協会

事業部門

I 盲導犬貸与事業

視覚障害者の安全で自由な歩行を図り、盲導犬を貸与するため、次の事業を行った。
兵庫県下及び大阪府下の方に盲導犬 4 頭を貸与した。

II 社会参加訓練事業

盲導犬使用者及び使用予定者に対する歩行、及び視覚障がい者が社会に参加するため、次の訓練を行った。

- ① 盲導犬使用予定者に対する面接及び訓練指導を行った。
- ② 盲導犬使用者のフォローアップとして 15 名、延べ 104 回 252 時間程度の歩行訓練指導及び相談を行った。
- ③ 平成 26 年 5 月 30 日「パルシェ香りの館」(兵庫県淡路市)に於いて、盲導犬使用者及び盲導犬希望者の研修会「第 9 回ワンダフル会」を開催した。

III 盲導犬育成事業

盲導犬を育成するために、次の事業を行う。

- ① 繁殖
盲導犬候補犬及び繁殖犬確保の為、繁殖事業において協力関係の AGBN (ASIA GUIDE DOGS BREEDING NETWORK) 実務者会議に 3 回参加し、国内外の盲導犬育成施設及び優良な犬を保有するブリーダーとの交流を行った。
盲導犬候補犬確保を目的とし、当協会で生まれたパピー頭数 16 頭。
他協会より、繁殖犬・候補犬を計 9 頭譲り受けた。
- ② パピーの育成
パピーウォーカーに対して、巡回指導や電話での指導を行った。
4 月・7 月・8 月の計 5 回、当協会にて「パピーウォーカー研修会」を行った。
- ③ 盲導犬候補犬の訓練
盲導犬候補犬の訓練において稟性・健康評価ならびに定期的な訓練評価を実施し、適性のある犬に対し候補犬の訓練を行う。適性のない犬の中で PR 犬として活用できる犬を選定し、啓発活動用に訓練を実施した。
- ④ キャリアチェンジ犬
キャリアチェンジ犬 10 頭譲渡
広告媒体などを積極的に活用し、キャリアチェンジ犬譲渡希望者を継続的に募集し、確保に努めた。
- ⑤ リタイア犬
リタイア犬 7 頭譲渡
広告媒体などを積極的に活用し、リタイア犬譲渡希望者を継続的に募集確保に努めた。

- ⑥ ボランティアの養成
「盲導犬使用者サポート講習会」を実施し、人材育成及び指導を行った。

日 時：平成 26 年 5 月 26 日(月) 9:00 ~ 12:00
場 所：(社福)兵庫盲導犬協会 神戸総合訓練センター 犬舎棟 2 階ホール
参 加 者：10 名

- ⑦ 犬舎データベースの再構築
平成 22 年度に ISI ソフトウェア株式会社の協力で構築された、犬ならびに訓練に関する情報管理データベース「ワンダフルネット」の改良・修正を行った。

IV 盲導犬歩行指導員、盲導犬訓練士および職員の研修

- ① 認定 NPO 法人全国盲導犬施設連合会の歩行指導員資格認定
盲導犬歩行指導員 1 名資格更新
盲導犬訓練士 1 名資格更新
盲導犬歩行指導員及び訓練士学科試験 4 名合格
- ② 役職員を次の研修会に派遣し、資質向上を行った。
認定 NPO 法人全国盲導犬施設連合会の研修に 1 名 1 回
神戸ロイヤルグルーミング学院の研修に 1 名 6 回
2014IGDF セミナー & 繁殖ワークショップに 6 名 1 回
- ③ 職員に対して、視覚障害者の歩行をサポートする実地講習を、施設内や路上、交通機関を利用して行った。

V 盲導犬啓発普及事業

盲導犬の必要性について社会全般への啓発を図り、盲導犬育成を推進するため、次の事業を行った。

- ① 盲導犬の必要性について、視覚障がい者個人及び団体に対して、盲導犬の体験歩行を実施し、盲導犬貸与希望者を募るとともに広報誌「ワンダフル通信」の音声版の継続発行を通して、盲導犬に関する情報提供を行った。
- ② 施設見学会や講演や各種イベントに参加するとともに、啓発資料の貸出しを次の通り行った。
- | | |
|-------------------|---|
| イベント活動 | 計 121 回 |
| 施設見学会 | 計 4 回 |
| 特別見学会 | 計 12 回 |
| 学校講演 | 計 95 回(神戸市 50 校、姫路市 20 校、加古川市 4 校、その他 21 校) |
| 一般講演 | 計 19 回 |
| 資料(啓発パネル・DVD)の貸出し | 17 回 |
- ③ 自動販売機・募金箱設置協力の呼びかけを積極的に行うとともに、企業や労働組合の社会貢献等に関する企画を提案し、正しい理解の啓発とともに支援の獲得に努めた。
- ④ 街頭募金活動 57 回

- ⑤ 広報誌「ワンダフル通信」を年4回(4月・7月・10月・1月)発行。
視覚障がい者、施設の向けの音声版「ワンダフル通信」発行。
ホームページを刷新し、月1回程度更新を行って、協会のイベントや情報を発信した。
- ⑥ 啓発用資料等の充実を図り、A4サイズ振込用紙付きパンフレットを新たに作成。
盲導犬チャリティーグッズの充実を図り開発を行い、積極的に啓発活動で紹介し、寄附を募った。新規開発グッズは次の通りであった。
盲導犬キーホルダー、クリアファイル(アルク)
- ⑦ 新聞・ラジオ・テレビ・フリーペーパー等の取材に対して積極的に応じ、ホームページでイベント情報の発信も頻繁に行った。
- ⑧ 「第14回国際盲導犬デーin神戸」と「慰霊祭」
盲導犬使用者・ボランティア・支援者が参加し、盲導犬に対する理解と交流を深めた。
また亡くなった盲導犬・ボランティア犬の慰霊祭を行った。

日 時：平成26年4月29日(火) 10:00 ~ 13:30

場 所：(社福)兵庫盲導犬協会 神戸総合訓練センター(神戸市西区押部谷)

参加者：290名

- ⑨ 「タンデム自転車を楽しむ会 in 神戸」
視覚障がい者と晴眼者がともに力を合わせてタンデム自転車に乗り、共有の体験をすることによりお互いの理解を深める事ができた。

日 時：平成26年11月16日(日) 13:00 ~ 15:00

場 所：ポーアイしおさい公園(神戸市中央区港島1丁目)

参加者：13名(視覚障がい者)、他ボランティア多数

VI 関係団体協力事業

- ① 兵庫県下の中学校に対してトライやる・ウィーク受け入れ 3校 3名
兵庫県立農業高等学校インターン受け入れ 2名
- ② 神戸市西区ボランティアセンターと連携するとともに、定期的にメディア・広報誌にてボランティア募集情報を発信し、ボランティアの安定的な確保に努めた。
- ③ 国際盲導犬連盟の正会員の正式加入にあたり、施設環境を常に国際レベルの基準に保つよう、定期的に見直し・修繕を行うよう努めた。
- ④ 認定NPO法人全国盲導犬施設連合会、AGBN、全日本盲導犬使用者の会、その他補助犬団体との相互協力を行った。

VII 相談事業

- ① 盲導犬ユーザーからの相談や苦情、一般市民からの盲導犬に関する相談や苦情に対して、迅速に対応した。又、苦情や相談に対する情報共有マニュアルの見直しを行った。
- ② 盲導犬ユーザー及び盲導犬の社会受容の推進のため、行政や関連団体と連携しながら調査及び研究を実施した。

管理部門

(1) 個人会員・団体会員の増強

年4回広報誌「ワンダフル通信」を通じて情報発信を行い、盲導犬育成事業への継続的な支援をお願いするとともに、安定的な事業運営の為、イベントや講演等で新規会員入会の働きかけを行った。

新規会員数 56名

(2) 募金箱設置先の拡大

新規募金箱設置件数 84件

募金箱交換件数 970件

(3) 街頭募金の定期的実施

協会募金活動ボランティア、中学校・高等学校やライオンズクラブ、企業等と協力して安定的な事業運営の為の募金活動を定期的に行った。

(4) 自動販売機設置の拡大

新規自動販売機件数 4件

自動販売機設置件数 61件(平成26年3月31日現在)

(5) ボランティアの養成

盲導犬育成事業への支援ボランティア(事務及びイベント関係)の確保と人材育成及び指導に努めた。

(6) その他、目的を達成するために会議を行う

毎月第1火曜日に戦略会議及び全体会議を行った。

第3火曜日に犬舎会議、毎週水曜日に事務局連絡会を開催し、効率的な組織運営や資金獲得に向けて職員の相互理解、意識を高めて目的に向けて活動するよう努めた。

(7) スケジュール管理システムの構築

ISIソフトウェア株式会社の協力で、活動スケジュール並びにシフトの管理データベース「スケジュール管理システム」の構築を行った。

施設整備計画

(1) 老朽化した設備の点検・補修を定期的に行い、補修にともなう助成金を申請し、補修を行った。

(2) 消防用設備等点検

総合点検を7月、機器点検を1月に実施した。

(3) 3月に自衛消防訓練を実施し、神戸市西消防署に届出を行った。